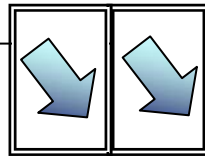


経済フローチャート

～日本経済の現状と6ヶ月見通し（9月6日時点）～

国内景況感

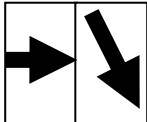
輸出の伸び鈍化等を背景に、景気は緩やかに減速している。先行きについても、世界経済の減速に伴って輸出の伸びが一層鈍化することに加え、エコカー補助金等の政策効果が剥落することから、成長ペースの鈍化が予想される。2010年度後半に日本経済は踊り場局面入りするだろう。



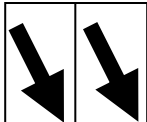
現状 6ヶ月後

(2010年7-9月期) (2011年1-3月期)

①世界経済



②輸出



③生産



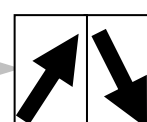
④企業収益



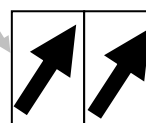
⑥雇用・賃金



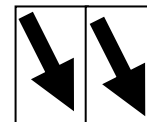
⑦個人消費



⑧住宅投資



⑨公共投資



国内需要



⑩物価



(注) 矢印の方向は、各種関連統計、当社経済見通しなどを勘案して、判断している。

	コメント
①世界経済	<ul style="list-style-type: none"> ・世界景気は、2010 年後半から 11 年前半にかけて先進国の財政拡大余地が乏しい中、景気対策の押し上げ効果の減退や、循環的な動きの弱まりによって成長ペースは減速すると見込まれる。 ・米国経済は、10 年後半も不良債権問題による景気抑制圧力が続く中、景気対策の息切れ、在庫の増加ペース鈍化により減速し、潜在成長率である前期比年率+2.5%を下回る成長が見込まれる。 ・ユーロ圏経済は、10 年 7-9 月期以降もユーロ安、景気刺激策によってプラス成長は続けるものの、金融問題への対応の遅れによる信用収縮、一部の国での緊縮財政等が景気回復の障害となり、緩やかな拡大にとどまると見込まれる。 ・アジア経済は、10 年 7-9 月期以降世界景気のリバウンドペース減速を受け、拡大ペースは鈍化するものの、依然緩和的な金融環境や歳出拡大を伴う内需刺激策などを背景に、中国主導で堅調を維持すると予想される。
②輸出	海外における政策効果の剥落や在庫復元効果の弱まりに伴い、輸出は緩やかに減速している。先行きも、世界経済の減速を背景として減速感が強まることが予想される。
③生産	輸出が緩やかに減速していることに加え、在庫復元効果も弱まっていることで、生産は増加ペースが鈍化している。先行きについても、輸出の減速ペースが速まることで、生産も減速度合いが強まる見込み。
④企業収益	企業収益は足元で持ち直しているが、生産活動の緩やかな減速に伴って、回復ペースは鈍化している。先行き、生産の減速感が強まることで、企業収益も次第に頭打ちになるだろう。
⑤設備投資	企業収益の回復や稼働率の持ち直しに伴って、製造業を中心に設備投資は持ち直している。もっとも、生産活動の減速から企業収益が鈍化することに加え、景気の先行き不透明感の強まりや円高の進行等が企業の投資マインドを冷やす可能性があり、設備投資の回復ペースは緩慢なものにとどまる見込み。
⑥雇用・賃金	これまでの景気回復の影響が波及することで、雇用や所得は悪化に歯止めがかかっている。先行きは緩やかな回復が期待できるだろう。もっとも、売上高の水準が低い中で雇用過剰感が残存することから、回復ペースは緩慢なものにとどまると予想される。
⑦個人消費	エコカー補助金終了を前にした駆け込み需要や猛暑効果によって、7-9 月期の個人消費は高い伸びになった。もっとも、これらは一時的な要因であり、10-12 月期以降は反動減が予想される。年度後半については、個人消費の落ち込みが景気の下押し要因になるだろう。
⑧住宅投資	在庫調整の進展や各種住宅取得支援制度の効果、雇用・所得環境が最悪期を脱したことなどを背景として、住宅着工は緩やかに持ち直している。当面、回復傾向が続くだろう。
⑨公共投資	2010 年度当初予算で公共事業関係費が大きく削減されたことから、減少基調が続くと予想される。
⑩物価	景気悪化に由来する物価下押し圧力が根強く残っており、物価下落が続いている。先行き、下落幅は緩やかに縮小することが見込まれるが、需給ギャップは依然大きいことから、プラス転化には時間がかかるだろう。